

公認情報システム監査人 CISA® Program

cisa



**Our mission is to vigorously help
our clients change to be more successful
in their career as business professionals.**

私達Abitusは、お客様一人ひとりが
ビジネスの世界でより優れたプロフェッショナルになるための
自己変革を全面的にサポートいたします。

※Abitusとはラテン語で「出発」を意味します。

公認情報システム監査人 CISA® Program

- P.4 CISA®とは
- P.6 合格実績と合格者の声
- P.8 CISA®試験について
- P.12 アビタスの教材とサポート
- P.18 申し込みについて
- P.19 よくあるご質問

代表からのメッセージ

情報システムは、今日の企業活動において、既に「重要」なものから「不可欠」なものとなっています。

CEOやCFOと並び称される役職、CIO(Chief Information Officer：最高情報責任者)を設ける企業も増えています。そして、CIOとして会社の経営に携わりたいと考える方が、CIOを目指すパスポートとしてCISA®を取得されるケースもあります。

CISA®の学習では、情報システムの専門的知識にとどまらず、組織体の経営戦略に対して情報システムがどのように関連し、目標達成にどのように貢献できるかについての知識も習得できます。実際、日頃情報システム業務に従事している方から、CISA®の学習を通じて、企業における情報システムの位置付けや重要性を新たな視点で認識でき、業務の改善につながったというお声をいただいています。

専門知識を持ち、かつ、それに裏付けされた経験を有するシステム監査人はまだ少なく貴重な存在です。システム監査の体系的学習は皆様のキャリア構築の上でも必ずプラスとなります。CISA®の学習を通じて時代の要請に応える専門知識を身に付けていただきたいと思います。

CISA®取得に向けて、アビタスの教材とサポートをぜひご活用ください。



アビタス代表
米国公認会計士 公認内部監査人

三輪 豊明

CISA® (公認情報システム監査人)とは

情報システム監査とは、情報システムの信頼性・安全性・効率性を検証し、評価することです。

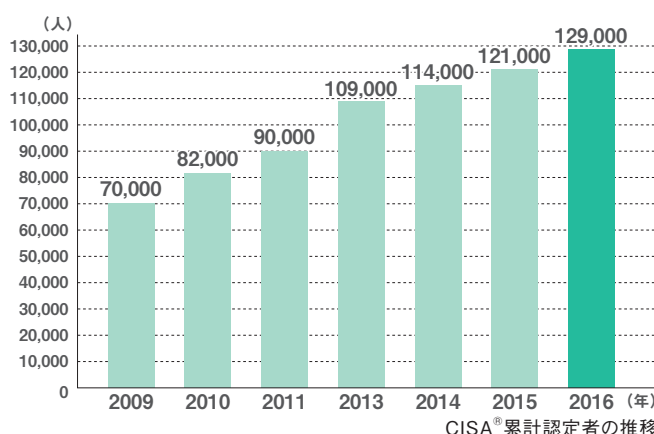
ビジネス環境における情報システムの急速な普及によって、情報システムは企業の目標達成と存続に不可欠な要素として、ビジネスの根幹を支えています。

それは同時に、情報システムが様々なリスクに晒されていることを意味します。例えば、情報システム運用コストの肥大化、システム障害、情報の漏えいなどです。企業における相次ぐ個人情報の流失事件は、当該企業や社会に与える影響の大きさから、システム監査の重要性を認識させる契機となっています。

上記のリスクに対し、情報システム監査人は、ただチェックシートにマークをしていくだけでは職責を果たせません。経営者と同じ目線に立って監査し、経営者に改善を促す役目が求められています。

能力と専門性を証明する国際資格

公認情報システム監査人を意味するCISA®とは、"Certified Information Systems Auditor"の略称です。情報システム監査、セキュリティ、コントロールに関する指導的な役割を担うISACA®(情報システムコントロール協会)が認定する国際的な資格です。情報システム監査人の能力と専門性を証明することを目的に、1978年より開始されたCISA®資格認定試験は、約80の国で実施され、2016年末時点で累計129,000人以上の資格認定者がいます。



ISACA® (Information Systems Audit and Control Association : 情報システムコントロール協会)

1976年にアメリカで設立。情報システム監査基準の作成、CISA®(公認情報システム監査人)などの資格認定を行い、ITガバナンス・コントロール・セキュリティおよび情報システム監査のための世界的な指導的役割を担う組織。現在、全世界で130,000人以上の会員を擁している。日本には東京・大阪・名古屋・福岡に支部があり、会員数は約3,700人。

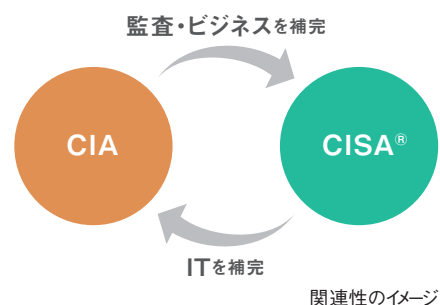
column

CIA (公認内部監査人) とCISA® の関連性とは？

監査関連の資格として、CIA (公認内部監査人) をご存知の方は多いでしょう。2つの資格の関連性をご紹介します。

CIAでは、「監査+ビジネス」を主に学習します。ビジネスの一部にITも含まれますが、最低限の用語の理解にとどまりますので、ITに関わるリスクおよび監査の着眼点について深くは触れられていません。一方CISA®では、CIAで不足する「ITに係るリスクおよび監査の着眼点」を中心に学習します。ただし、監査の学習量はCIAの方が多いです。また会計・ファイナンス・経営戦略についてはCISA®では取り扱いません。それぞれの資格で不足する部分を補完し合うのが、ダブルライセンスの魅力です。

CISA®取得を目指している方は、その後CIAの取得を、既にCIAを取得されている方は、CISA®の取得を推奨いたします。



情報システム監査の専門家として幅広く活躍

CISA®が日本国内で注目されるようになった契機は、2009年3月期より導入された「金融商品取引法(J-SOX)」です。導入以前は主に監査法人やコンサルティング会社に在籍する方がCISA®を取得されていましたが、導入後は事業会社の内部監査部門に在籍されている方の取得が増えました。内部監査業務を遂行する上でシステムやシステム監査に関する知識が不可欠であったためです。そして現在、リスク管理という観点から、情報システム部門やセキュリティ部門に在籍されている方の取得が増えています。

欧米においては、特にリスク管理の必要性が高い金融機関などを中心に、CISA®資格者が情報システム監査の専門家として幅広く活躍しています。今後日本においても、CISA®資格者の必要性が様々な業種でより一層高まることが予想されます。

事業会社の場合

内部監査部門
情報システム部門
セキュリティ部門
コンプライアンス部門

監査法人の場合

IT監査部門
リスク・マネジメント部門

コンサルティング会社の場合

ITオペレーション
セキュリティ
コンプライアンス

Message

システム監査に要求されるレベルは高くなり、責任も大きく変化 ～CISA®の視点で企業経営をサポートする重要性～

「システム監査」という言葉を聞いたとき、どのように思われるでしょうか？

- ・ 監査は少数の専門家のための技術である
- ・ 私は別の部署(開発部門、運用担当など)なので関係が無い
- ・ 経営管理の立場なので報告だけ受ければ良い

などのご感想が多いかもしれません。実は私も米国企業でシステム総責任者をしていた頃、同じような思いでしたし、毎年やってくるシステム監査もほとんど気にしていませんでした。しかし2004年の米国SOX法の実施を受けてからは、要求されるレベルが非常に高くなり、責任も格段に大きくなったと痛感することが多くなりました。ちょうどその頃、内部と外部の監査人の多くがCISA®資格を持っていることを知り、同じ土俵で競争していくためにも、システム監査の方法論を学ぼうとCISA®を取得しました。実際、IT責任者また経営者として問題点の洗い出し・改善・提案等を行ううえで、CISA®として身に付けた監査の視点が大いに役立ってきたと実感しています。

近年、幾つかの企業がGRC(Governance Risk Compliance)の成熟度の低さから不祥事を起こしています。経営者・運用者・開発者が常に監査の視点を持ち、企業のGRCをモニターし評価することは企業の防

衛や発達に不可欠と言えます。

また、現代においてIT技術無しで運営できる事業体はほとんどありません。そのためIT以外の経営層の責任として、企業全体のガバナンス機構にIT分野を統合して行くことは必要不可欠となってきています。さらにITの進歩や通信ネットワークの拡張によって、事業の活動がよりグローバルになっていることから、事業体活動をグローバルな基準に準拠して監査・モニター・評価・改善する事は、ますます重要になってきています。

このような中、ISACA®が提供する資格については、世界約190カ国以上で14万人余りの有資格者の皆さまが活躍されており、支部も日本の4支部(東京・名古屋・大阪・福岡)を含む世界210都市以上で展開しています。その結果、世界中の多様な企業や政府関連組織でCISA®資格が広く認知され高い評価を受けております。

CISA®の受験をきっかけに、ぜひ体系的な知識を修得され、グローバルな人脈を築いてください。



五島 浩徳氏

CISA®, CGEIT®, CISM®, CRISC®, ABCP, ISACA®
東京支部2015-2017年度会長兼理事
ファイブ・アイLLC ITコンサルティングパートナー
Asia-Pacific CACS/ISRM 2014議長
DRI Japan 理事

合格実績と合格者の声

合格実績

アビタスのCISA®合格者は

1,028名!

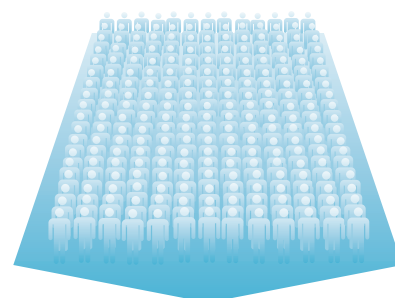
2007年4月に開講したアビタスのCISA®プログラム。

開講以降、順調に合格者を輩出し続け、2017年10月時点で、
累計合格者数1,028名に到達しました。

また、開講以来の合格率は約75%と圧倒的な合格実績を誇ります。

※当校CISA®受講生に実施したアンケート結果に基づいています。

2007年4月 CISA®プログラム開講



2017年10月時点 **1,028名**

CISA®試験のアビタス受講生累計合格者数

合格者の声

IT監査を体系的に学び自信を持って業務に臨めるように

仕事上で資格がプラスに作用

仕事でITの監査を担っていましたが、体系だった勉強をしたことはありませんでした。CISA®といううってつけの資格があることを知り、目指すことにしました。仕事でやっていたことを裏付ける知識を効率良く学ぶことができ、資格取得したことでさらに自信をもって仕事を進められるようになりました。社外の方と会う際には、資格を持っていることがプラスに作用することを期待していましたが、まさに期待していると通りの効果がありました。

通学を選び強制的に勉強時間を確保

仕事をしていると、勉強時間を確保することが難しくなりますが、私の場合、通学することで強制的に勉強時間を取る方法を選びました。実際に、勉強にかかる時間は短縮されたと思っていますし、アビタスに通って良かったと思っています。効率よく学べて資格も取得することができました。

CISA®の知識は監査をする上で必須

監査の実務で不足していた知識が補われ、より自信をもって仕事ができるようになりました。CISA®を持っていることで業務にプラスになったと実感しています。学習を通じて得た知識はITの監査をする上で欠かせないものですし、より自信をもって業務を進めることができます。CIAなど別の資格に向けて歩むきっかけにもなりました。社会人になって学習する機会を得られたこともとても良かったと思っています。

実務・試験対策などの情報を入手

普段の仕事があるので時間を確保することが課題でした。通学を選んだことで、結果的に勉強時間を確保できた点は良い判断だったと思っています。テキストに載っていることを分かりやすく教わることができましたし、監査の実務、試験対策などの情報を入手でき、毎回通うのが楽しかったです。



大手百貨店 内部監査部門
IT監査チームリーダー

伏見 紳一さん

定期的にヘッドハンティングを受けています

「英語、会計、ITがこれから必須のスキル」

U.S.CPA(米国公認会計士)資格を取得したのち、ある雑誌に「英語、会計、ITがこれから必須のスキルになる」と書かれていたのを見てIT系の国際資格に興味を持ちました。経営コンサルという職業と最も親和性が高いのがCISA®だと判断しました。経営者目線で経営戦略とIT戦略との融合、ITの価値の最大化、ITリスクの最小化などを経営者に語る上で、CISA®は最も説得力を付与してくれる武器になると考えました。

アビタス教材のクオリティーに感心

U.S.CPAを取得できたのは、アビタスの教材【テキストとMCカード(カード式問題集)】のクオリティーの高さがあったからです。講師、スタッフの方の親身なサポートも素晴らしいと感じ、CISA®でもアビタスを選びました。

社内外の信用がアップ

CISA®の試験範囲を通じ、自分の知識、経験から漏れていた「穴」を網羅的かつ効率的に埋めることができました。名刺に「公認情報システム監査人」と書くことでクライアントの信用が大きくアップしたと思います。社内も同様です。上司から「スゲーな、お前」と褒められたときは鼻が高かったです。キャリア選択の幅も広がります。私は51歳になりますが、定期的にハイポジションへのヘッドハンティングを受けています。

MCカード(カード式問題集)が最高のテキスト

記憶が定着しているかを確認するにはMCカードしかありません。MCの回答欄に「選択肢aは誤り。なぜならば・・・よって正答はd。」などと簡潔な解説がついているので、MCこそ私にとって最高のテキストでした。通勤時間と昼休みを利用して平日は3時間程度、休日は頑張って8時間ほど学習しました。MCを20周くらいこなし、4か月で合格できました。



米国系
総合コンサルティングファーム
笹原 大志さん

短期合格のカギはテキストと問題集、そして講師陣でした

所属部門で必要性の高い資格

私は現在、企業に対する不正調査、ITを含む内部統制構築支援、データ復元などをサービスとするフォレンジック部門に所属しており、CISA®はグループにとっても、また自分自身にとっても非常に必要性の高い資格でした。また、公官庁の入札条件をクリアするためにも本資格の取得を決意しました。

要点がまとまったテキスト

自身のバックグラウンドがITであり、また勤務先も監査法人系であることから、学習内容を理解することはあまり困難には感じませんでしたが、過去問題の日本語訳がほぼ直訳のため慣れるために時間がかかりました。ISACA®のレビューマニュアルは量が膨大な上、直訳の日本語で書かれているので私にはわかりづらく、その点ではアビタスのテキストは要点がまとめられていて学習しやすかったです。

毎週少しずつ学習

通信生として登録しましたが、できる限り通学コースの講義に出席し、「その日のうちにMCカードで復習」→「間違えた箇所についてテキストで見直し」→「MCカードで再度復習」という学習を繰り返しました。問題量も多いため、溜めて一気に学習することは避け、毎週少しずつでも学習することを心がけました。また、テスト1カ月前からは、MCカードと模擬テスト問題(Webプラクティス)を計りながら繰り返し解き、時間の感覚を確認するようにしました。

短期間で合格

短期間で合格できたのは、要領よくまとめられたテキストと問題集、あとはテキストに載っていないポイントも講義していただける講師陣のおかげだと思っています。今後はこの資格を実務に活かし、さらに質の高いサービスを提供していきたいと思っています。



大手監査法人
グループ会社 勤務
フォレンジックグループ

宮内 祐佳さん

CISA[®] 試験について

■ 試験内容と合格基準

CISA[®]試験は、最新のCISA[®]業務分析から生み出された、5つの実務領域(ドメイン)に関する150問の4択問題で構成されています。下記のドメインと割合は、試験に出る質問の重要度を示します。なお、本試験ではドメイン順ではなく、ランダムに出題されます。

試験内容

	主題内容	割合	出題形式	問題数	試験時間
ドメイン1	情報システム監査のプロセス	21%	4 択	150問	4時間
ドメイン2	ITガバナンスとマネジメント	16%			
ドメイン3	情報システムの取得、開発、導入	18%			
ドメイン4	情報システムの運用、保守、およびサービスの管理	20%			
ドメイン5	情報資産の保護	25%			

合格基準

CISA[®]試験の得点は、200～800ポイントのスケールド・スコアに換算され、450ポイント以上で合格となります。

■ 試験制度

コンピュータ試験(Computer-based Testing:CBT)

テストセンターのコンピュータで解答します。受験可能期間のお好きな日に受験する事ができます。自由度が高く、多忙なビジネスパーソンでも受験に取り組みやすくなっています。また、世界中で日本語による受験が可能です。

試験日程

年3回の試験期間内に受験できます。年3回の試験期間とは、2月1日～5月23日、6月1日～9月23日、10月1日～1月24日です。



※2017年11月時点。同じExam Window内での再受験はできません。

受験申込

ISACA[®] Webサイトからオンラインで申し込み手続きが可能です(英語のサイトになりますが、受講生の皆さまには日本語手続きマニュアルをご用意しております)。

受験資格

18歳以上であればどなたでも受験可能です。学歴、実務経験などの要件はありません。

結果通知

試験直後に受験者に提示されます。

受験料

ISACA [®] 会員	ISACA [®] 非会員
U.S.\$ 575	U.S.\$ 760

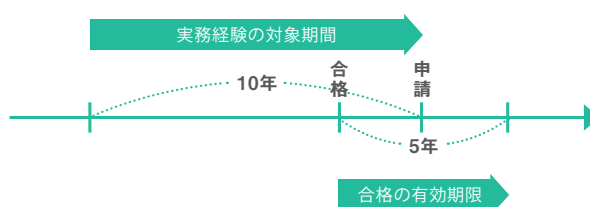
※表示価格は2017年11月時点のもので、受験料は変動します。
必ずISACA[®] Webサイトでご確認ください。

■ CISA® 認定

CISA®と認定されるには、最低5年間の情報システム監査、コントロール、保証あるいはセキュリティ分野での実務経験を証明する必要があります(実務経験の詳細は次ページをご覧ください)。

これらの実務経験は、認定申請日からさかのぼって10年以内の経験に限ります。

合格の有効期限は5年間です。それまでに認定要件を満たさない場合は、失効してしまいますのでご注意ください。



以下の要件を満たすことで、実務経験に代替することができます(最大3年まで)。

- 最大1年間の情報システムまたは1年間の会計監査経験、業務監査経験は、1年間の経験に代替することができます。
- 取得した60～120単位の大学の履修単位(2年または4年の学位相当)は、10年以内という規則に制限されることなく、1年または2年の経験に代替することができます。
- 情報セキュリティまたは情報技術の修士号は、1年間の経験に代替することができます。
- コンピュータサイエンス、経理、情報システム監査での2年間の常勤大学講師としての経験は、1年間の経験に代替することができます。

■ 認定を維持する継続教育

CISA®認定を維持するには、所定時間以上の継続教育(CPE)が必要です。講義や研修などを受ける場合、1CPEは50分で、認定された翌年から1年で少なくとも20CPE、3年で120CPEを受講しなくてはなりません。

またCISA®維持手数料(ISACA®会員：\$45、非会員：\$85)の納入も必要です。

■ ISACA® 入会費用(2017年11月時点)

入会費(初回のみ)	U.S.\$ 30
国際会費	U.S.\$ 135
支部費	東京：U.S.\$ 50 大阪：U.S.\$ 85 名古屋：U.S.\$ 60 福岡：U.S.\$ 80

2018年	2019年	2020年	2021年
資格認定	← 20CPE以上 →	← 20CPE以上 →	← 20CPE以上 →
	← 3年間で120CPE以上 →		

上記の要件を満たせない場合、CISA®認定および合格実績が取り消されますのでご注意ください。

■ 実務経験

ドメイン1.情報システム監査のプロセス

IT監査基準に従い、組織における情報システムの保護および管理を支援するために、情報システム監査サービスを提供する。

タスク項目

- 主要な領域が含まれることを確実にするために、IT監査基準に従って、リスクベースのIT監査戦略を策定及び導入すること。
- 情報システムが保護され管理されているかどうかを判断するために、特定の監査を計画し、組織にその評価を提供すること。
- 策定した監査目標を達成するために、IT監査基準に従って監査を実施すること。
- 結果を伝えるとともに必要な場合は修正をもたらすために、主要な利害関係者に監査の発見事項の報告及び改善勧告を行うこと。
- 経営者によって適切な措置がタイムリーにとられていることを確認するために、フォローアップを実施すること、あるいは、状況報告書を作成すること。

ドメイン2.ITガバナンスとマネジメント

目標を達成し、組織の戦略を支援するために必要とされるリーダーシップ、組織構造、およびプロセスを備えているという保証を提供する。

タスク項目

- ITに関する意思決定、方向性、パフォーマンスが組織の戦略と目標を支援しているかどうかを判断するために、ITガバナンスの構造の有効性を評価すること。
- ITの組織構造、及び人材(人事)管理が組織の戦略の目標を支援しているかどうかを判断するために、それら进行评估すること。
- IT戦略(ITの方向性を含む)、戦略の策定、承認、導入、及び維持のプロセスが組織の戦略と目標に整合しているかどうかを判断するために、それら进行评估すること。
- 組織のIT方針、基準、及び手順と、それらの開発、承認、導入、維持、及びモニタリングのプロセスがIT戦略を支援し、法令及び規制要求事項を順守しているかどうかを判断するために、それら进行评估すること。
- 品質管理システムが費用対効果の高い方法で、組織の戦略と目標を支援しているかどうかを判断するために、その妥当性を評価すること。
- ITに関する管理とコントロールのモニタリング(例：継続的モニタリング、品質保証)が組織の方針、基準、及び手順を順守しているかどうかを判断するために、それら进行评估すること。
- IT資源の投資、活用、割り当ての業務(優先順位決定基準を含む)が組織の戦略と目標に整合しているかどうかを判断するために、それら进行评估すること。
- ITに関する契約戦略と方針、及び契約管理業務が組織の戦略や目標を支援しているかどうかを判断するために、それら进行评估すること。
- 組織のIT関連リスクが適切に管理されているかどうかを判断するために、リスク管理業務を評価すること。
- 取締役と上級経営者がITパフォーマンスについて十分かつ適時な報告を受けているかどうかを判断するために、モニタリングと保証の業務を評価すること。
- ITの障害発生期間中に、重要な業務の運営を継続できるかどうか組織の能力を判断するために、組織の事業継続計画を評価すること。

ドメイン3.情報システムの取得、開発および導入

情報システムの取得、開発、テスト、および導入の業務が組織の戦略と目標を満たしているという保証を提供する。

タスク項目

- 情報システムの調達、開発、保守、及びその後の廃棄への提案された投資が、ビジネス目標に合致しているかどうかを判断するために、そのビジネスケースを評価すること。
- 組織に対するリスクを管理しつつ、費用対効果の高い方法でビジネス要件が実現されるかどうかを判断するために、プロジェクト管理の業務とコントロールを評価すること。
- プロジェクトが計画通りに進捗しているか、それが文書化によって適切にサポートされているか、及び状況報告が正確であるかを判断するために、レビューを実施すること。
- 組織の方針、基準、手順、及び適用可能な外部の要求事項を順守しているかどうかを判断するために、要件定義、調達、開発、及びテストの各フェーズにおける情報システムのコントロールを評価すること。
- プロジェクトの成果物、コントロール、及び組織の要件が合致しているかどうかを判断するために、情報システムの導入、及び本番への移行の準備状況を評価すること。
- プロジェクトの成果物、コントロール、及び組織の要件が合致しているかどうかを判断するために、情報システムの導入後のレビューを実施すること。

ドメイン4.情報システムの運用、保守およびサービスの管理

情報システムの運用、保守、及びサポートが、組織の戦略と目標を満たしているという保証を提供する。

タスク項目

- 組織目標との整合が継続して維持されているかどうかを判断するために、情報システムの定期的なレビューを実施すること。
- 社内及び外部のサービス提供者のサービスレベルが定義され管理されているかどうかを判断するために、サービスレベル管理業務を評価すること。
- 組織が期待するコントロールレベルがサービス提供者によって順守されているかどうかを判断するために、外部業者管理 (third-party management) 業務を評価すること。
- 計画された、あるいは緊急のプロセスが完了するまで管理されているかどうかを判断するために、運用及びエンドユーザーの手順を評価すること。
- 情報システムの保守プロセスが適切に管理され、継続して組織の目標を支援しているかどうかを判断するために、情報システムの保守プロセスを評価すること。
- データベースの完全性と最適化を確認するために、データ管理業務を評価すること。
- ITサービスが組織の目標に合致しているかどうかを判断するために、容量、及び性能監視ツールと技法の有効性を評価すること。
- インシデント、問題、エラーが適時に記録、分析、解決されているかどうかを判断するために、問題管理、及びインシデント管理の業務を評価すること。
- 組織の本番環境に対する計画された、あるいは緊急の変更が適切に管理され文書化されているかどうかを判断するために、変更管理、構成管理、及びリリース管理の業務を評価すること。
- 処理を再開するための必要情報が利用可能かどうかを確認するために、バックアップ、及びリストア対策の妥当性を評価すること。
- 災害発生時に組織の災害復旧計画に基づいてIT処理能力の復旧が可能であるかどうかを判断するために、組織の災害復旧計画を評価すること。

ドメイン5.情報資産の保護

組織のセキュリティポリシー、基準、手順、及びコントロールが、情報資産の機密性、完全性、可用性を確保する保証を提供する。

タスク項目

- 情報セキュリティポリシー、基準、及び手順の完全性、及び一般的に受け入れられている業務との整合性について評価すること。
- システム、及び論理セキュリティコントロールの設計、導入、監視を評価して、情報の機密性、完全性、可用性を検証すること。
- データ分類プロセス、及び手順の設計、導入、監視が組織の方針、基準、手順、及び該当する外部要件と整合しているかどうかを判断するために、それらを評価すること。
- 物理的アクセス、及び環境コントロールの設計、導入、監視を評価し、情報資産が十分に保護されているかどうかを検証すること。
- 情報資産 (例:バックアップメディア、遠隔地の保管施設、ハードコピー／印刷データ、ソフトコピーメディア)の保管、検索、移送、廃棄を評価し、情報資産が適切に保護されているかどうかを検証すること。

■ 実務経験の証明方法

実務経験の証明は、ISACA®Webサイトに用意されている定型フォーマットを用います。

右記のように該当するご経験にチェックを入れ、職場の上司からサインをもらうだけで終了です。書類一式を電子メールで送信してから、約8週間後に資格認定され、さらに約4週間経過すると認定証がお手元に届きます。

フォーマットは英文ですが、当校で記入マニュアルをご用意しています。

※実務経験の申請にあたり、\$50が必要になります。

アビタスの教材とサポート

アビタスCISA®プログラムの特長は、質の高い講義と教材、サポートです。CISA®に精通した講師陣が講義を担当し、要点を解説します。オリジナルテキストは豊富な図解で128の論点を効率良くマスターできるよう構成しています。問題演習コンテンツも豊富にご用意しており、最短3カ月、150時間での合格を可能にします。受験手続きサポートをはじめ、学習に専念していただけるサポートも万全です。

■ 学習の流れ



■ 選べる受講形態

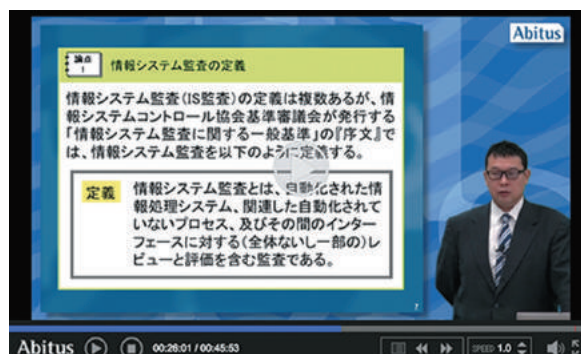
ライブ講義に出席する「通学コース」、Web上で学ぶ「eラーニング限定コース」があります。

※「通学コース」は年4回開講しています。

ライブ講義もeラーニングも活用したい方向けに「eラーニング・通学併用コース」もご用意しています。



ライブ講義風景



eラーニング動画

■ CISA®プログラム カリキュラム(ライブ講義各ドメイン2回 全10回・30時間)

ドメイン1

情報システム監査のプロセス(21%)

情報システム監査における監査計画、監査の実施、結果の評価および報告に至る一連の流れの主要なプロセスについて理解します。その中で、監査人が利用するサンプリングおよびコンピュータ支援監査技法(CAATs)等の監査ツールを扱います。また、ISACA®の「情報システム監査基準」及び、COBIT®に代表される情報システムにおける内部統制のフレームワークの基礎的な概念も学習します。

ドメイン2

ITガバナンスとマネジメント(16%)

ITガバナンスとは、組織体の経営戦略と情報技術戦略を整合させることを保証するため組織体のITに関する体制を管理し、コントロールする活動をいいます。組織体における情報システム戦略策定の要素、リスク分析方法、職務分離のあり方、さらに事業継続計画(BCP)に関連する諸概念について詳しく学習します。

ドメイン3

情報システムの取得、開発および導入(18%)

電子メールや電子商取引(E-Commerce)に代表される業務アプリケーション・システムに関する知識、及び一連のシステム開発プロセスについて詳しく学習します。その中で、業務アプリケーション・システムの開発、購入、導入、保守の各段階における情報システム監査人の役割について理解します。また、アプリケーション・システムにおける入力、処理、および出力のコントロールを総称したアプリケーション・コントロールの詳細についても学習します。

ドメイン4

情報システムの運用、保守およびサービスの管理(20%)

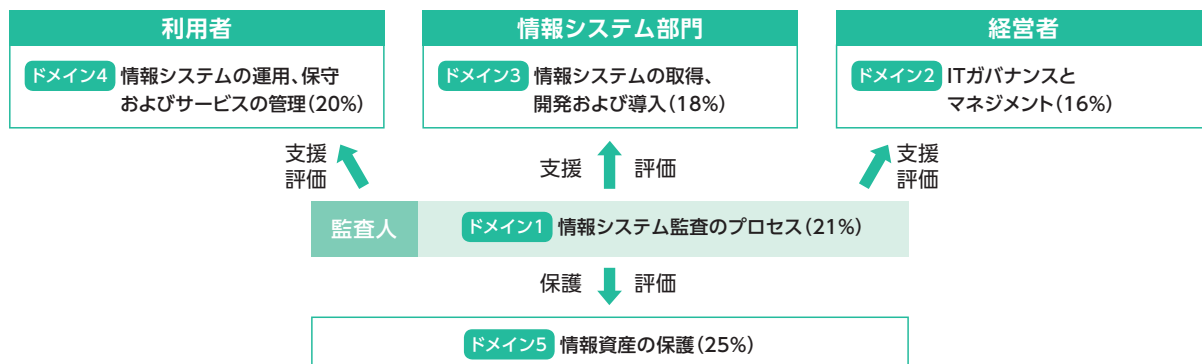
情報システムを構成するハードウェア、ソフトウェア、データベース及びネットワークの詳細な知識と、それらのインフラストラクチャーに対する監査方法を学習するとともに、ITに係る災害復旧計画に関する諸概念について学習します。

ドメイン5

情報資産の保護(25%)

不正なアクセスやコンピュータ・ウイルスなどから組織の情報資産を保護するための情報セキュリティについて扱います。IDやパスワード、生体認証などのアクセス統制、ファイアウォールに代表されるネットワーク上のセキュリティ管理について詳しく学習するとともに情報セキュリティに対する監査についても学習します。

■ 各ドメインの出題内容



■ 最短3カ月・150時間で合格を実現するプログラムの特長

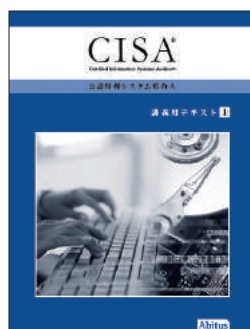
1 論点中心のオリジナルテキストと充実の講師陣

重要ポイントである「論点」をマスターし、最小限の学習でCISA®合格を目指すようテキストを開発しています。講師陣もCISA®に精通しており、「合格」に的を絞った講義を行います。受講生による講師の評価も実施しており、講義の質の管理も徹底しています。

テキスト・電子テキスト

128の論点を効率よく学べるオリジナルテキスト

理解すべき128の論点到絞りで、当校オリジナルテキストです。
豊富な図解を交えながら、複雑なコンセプトも一目で理解できるように編集しています。



重要学習ポイントについては、論点番号とタイトルが表示されています。

F ネットワーク・インフラのセキュリティ

Point 本トピックでは、ネットワーク・インフラに係るセキュリティについて学習します。ファイアウォールや侵入検知システム、暗号化システムなど重要な概念がいくつもありますので、それぞれの特徴を整理してしっかり理解しましょう。

1. ファイアウォール
ここでは、ファイアウォールの概要と種類、構成について扱う。それぞれの特徴や利点について詳しく解説する。

論点 118 ファイアウォール

ファイアウォールは、組織体内部のネットワークと外部のネットワークの間に設置され、組織体内のネットワークを外部から保護するためのセキュリティ・システムである。
その種類と構成には、以下がある。

a) 種類	1) パケットフィルタリング型
	2) アプリケーションゲートウェイ型
	3) その他
b) 構成	1) 公開サーバーをインターネット側セグメントに接続した構成
	2) 公開サーバーを内部ネットワークに接続した構成
	3) 非武装地帯(Demilitarized Zone; DMZ)

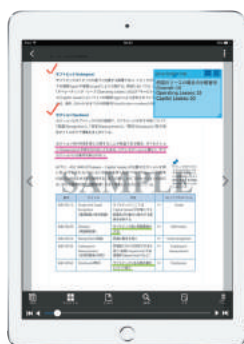
DMZ
スクリーン(DS)・サブネット・ファイアウォール(screened subnet firewall)と呼ばれることもある。

パーソナルファイアウォール
1台1台のPCに接続して利用するファイアウォール。ハッキングに対して有効なコントロールとなる。

a) ファイアウォールの概要
1) ファイアウォールは、ルータ、サーバー等様々なソフトウェアを使用した、ハードウェアとソフトウェアの組合せであり、組織体のセキュリティ方針に

そのトピックで学習するポイントが記載されています。学習前には必ず目を通すようにしてください。

理解すべき重要な概念やキーワードについて豊富な図解で解説しています。



さまざまな学習環境に対応できる電子テキストもご利用可能(有料オプション)

電子テキストは、インターネットブラウザ上とiOSアプリで提供する学習ツールです。製本版テキストを持ち歩かなくても、お手元の端末で学習可能です。

※端末はご自身でご用意ください。

・メモや書き込みを端末間で同期

・網羅的なテキスト検索機能

・オフライン環境下でも利用可能
※アプリをダウンロードしたiOS端末のみ

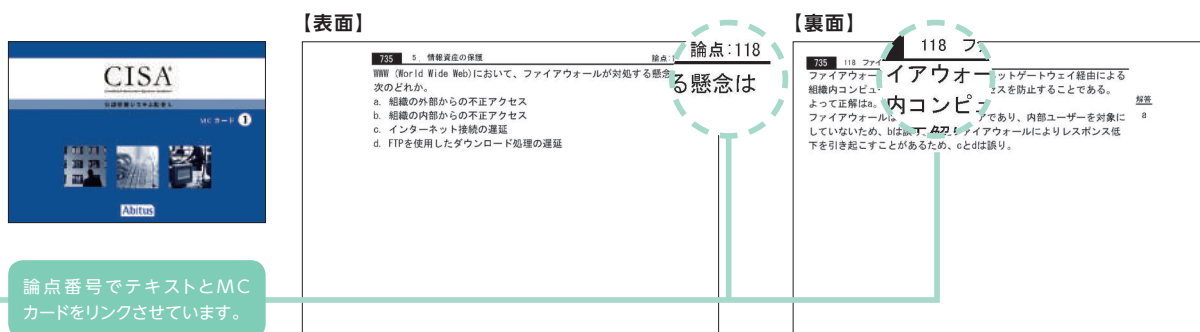
2 多彩な問題演習コンテンツ

本試験を想定し、4択のカード型問題集(MCカード)、インターネット上の問題演習ツール(Webプラクティス)をご用意しています。それぞれテキストの128の論点に関連付けられているので、論点ごとに理解度を確認していただけます。ISACA®のレビューマニュアルからの抜粋問題集では、さらに実践的トレーニングが可能です。

MCカード

効率的なアウトプット演習をA6サイズのカード型で実践

MCカードはISACA®が発行する「CISA®試験サンプル問題&解答・解説集」を全て収めたカード型問題集です。A6サイズの問題集は持ち運びに便利であり、通勤時間などスキマ時間を有効に活用して演習できます。MCカードの問題配列はテキストの「論点」の順番と一致しているため、復習の際に問題を探す手間が省けます。

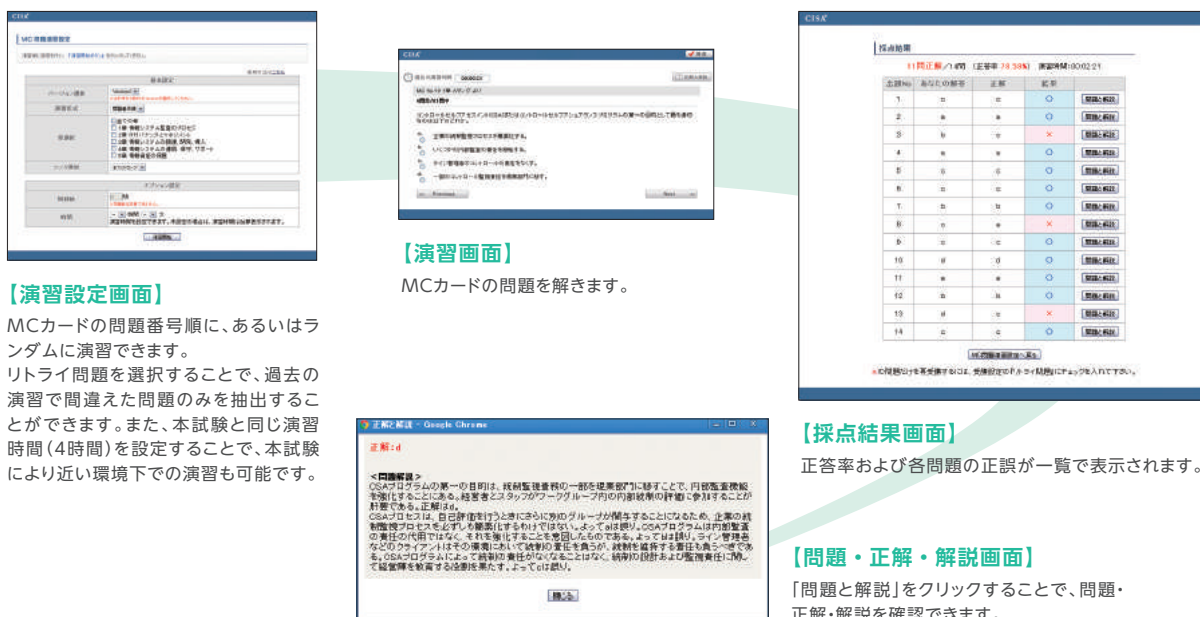


論点番号でテキストとMCカードをリンクさせています。

Webプラクティス

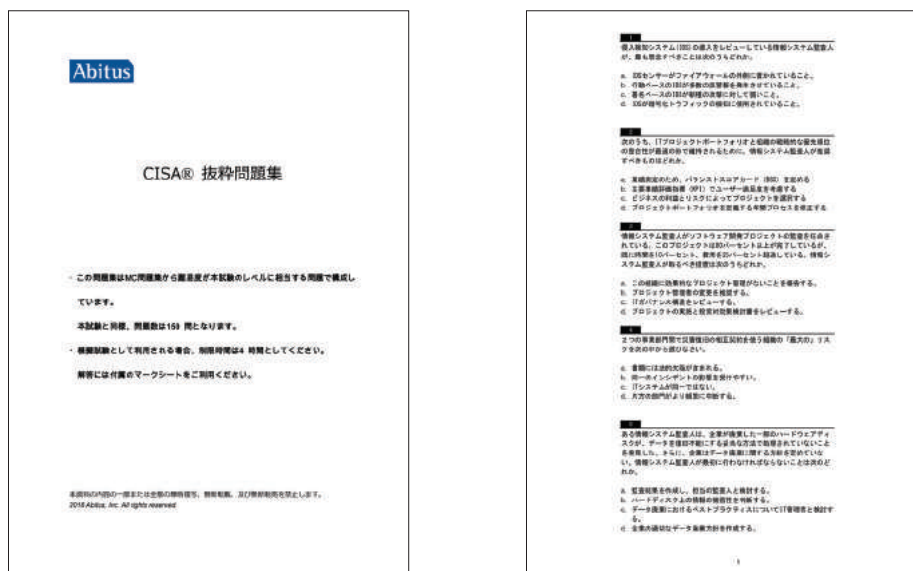
模擬試験の感覚で実践的トレーニング

Webプラクティスでは、MCカードの問題をインターネットでいつでも演習できます。CISA®試験の問題はドメインとは無関係にランダムに配列されていますが、Webプラクティスには問題をシャッフルする機能があり、制限時間を設けることができるので、本試験により近い環境で実践的トレーニングが可能です。



抜粋問題集

MCカードから本番レベルの問題を抜粋しました。本試験と同じドメイン比率で150問出題しています。受験直前の模擬試験としてもご活用いただけます。



3 万全のサポート

安心の2年間受講サポート体制

お仕事やご家庭の都合などで、学習の中断を余儀なくされた方でも学習を継続できるように、2年間の受講サポート体制を用意しています。**いずれのコースも、学習に関する質問回答サービス、受験手続サポート等を2年間無料で受けられます。**また、通学コースとeラーニング・通学併用コースの受講生は、入学後の2年間ライブ講義への出席が無料です(受講生マイページからの予約が必要です)。

通学コース

通学に便利な新宿本校・八重洲校にて講義を行います。

2年間なら何度でも出席可能

サポート期間内は、講義出席回数に制限はありません。

校内自習ブースも何度でも利用可能

欠席時のフォロー学習や、予習・復習時にご利用ください。各校にはWi-Fiを完備しています。ご自身のPCなどで学習いただけます。

eラーニング・通学併用コース

ライブ講義に加えて、全10回の講義をeラーニングで視聴できます。ご自身のペースで学習を進めることができます。

2年間なら何度でも講義に出席可能

通学コース同様、サポート期間内は、講義出席回数に制限はありません。

2年間なら何度でも視聴可能

サポート期間内にeラーニング視聴回数に制限はありません。

校内自習ブースも何度でも利用可能

自宅で集中できない場合など、スクールの自習室を利用して学習を進められます。各校にはWi-Fiを完備しています。ご自身のPCなどで学習いただけます。

eラーニング限定コース

全10回の講義をeラーニングで視聴できます。ご自身のペースで学習を進めることができます。

2年間なら何度でも視聴可能

サポート期間内にeラーニング視聴回数に制限はありません。

通学が難しい方におすすめ

海外や遠方にお住まいの方にお勧めです。

学習サポート体制

学習中

■ 学習に関する質問回答サービス

受講生マイページより、学習内容の不明点を質問できます。講師がわかりやすくスピーディーに回答します。

※質問数は無制限ですが、各質問に対する回答には最長で10日間をいただきます。また、週3件を超える質問に対しては、翌週分の質問として対応させていただきます。

■ 受験手続きサポート

CISA[®]試験の手続きは全て英語ですが、日本語のマニュアルを完備しています。

またご希望に応じて、スタッフが丁寧にご案内いたします。英語が苦手でも、ご安心して進めることができます。

■ 勉強法相談会

当校CISA[®]プログラム卒業生を招き、パネルディスカッション形式で学習方法のお悩みにお答えします。合格者に直接ご自身の不安を相談できること、最後に懇親会を行うため、好評をいただいています。

■ ISACA[®]教材 最新版リリース時のサポート

最新版がリリースされた場合、変更箇所に関する情報を無料で提供いたします。

■ 資格認定手続きサポート

受験手続き同様、英語での書類作成が必要になりますので、日本語のマニュアルを完備しています。

■ 合格者パーティー

アビタスに合格報告いただいた方を、合格者パーティーにご招待いたします。業界を超えて交流の輪を広げていただけます。

■ 高度専門職スキル養成講座(有料オプション)

外部専門家と協力し、資格取得のための体系的学習とは異なる実践的プログラムを提供しています。当講座の一部は継続教育(CPE)活動として報告できます。



合格後

申し込みについて

■ お申し込み方法

申込書またはWebでお申し込みいただけます。

申込書

申込書に必要事項をご記入の上、各校までご持参いただくか、郵送、ファクス、メール添付でお送りください。

Web

各校または cisa@abitus.co.jp までご希望のコースをお知らせください。当校スタッフからメールで申し込み用URLをご案内いたします。

■ お支払い方法

A. 現金 / 銀行振込

現金でのお支払いは、各校窓口にて。銀行振込の場合は、下記銀行口座までお振り込みください。

三菱東京UFJ銀行 新宿中央支店 普通 3823344 株式会社アビタス

B. クレジットカード(Web) ※通学コースはご利用いただけません。

ご利用可能なカード会社はVISA・MasterCard・JCB・アメリカンエクスプレス・ダイナースの5社です。



◆ 選択可能なカード支払い回数
(ご利用のクレジットカード会社により異なります)

1回・3回・5回・6回・10回・12回・15回・18回・24回・リボ払い

受講料のお見積もり

■ アビタスよりメールにてお見積もりのご案内を差し上げます。メールに添付されているURLをクリックしてください。

見積もり内容のご確認

■ サイト上のお見積もり画面で内容を確認、個人情報を入力の上、クレジットカード決済の手続きを進めてください。
■ 「申込規約」に同意いただく必要があります。

カード決済の受付完了

■ メールにてお手続き完了のお知らせが届きます。

受講開始

■ 教材の発送を行います。なお、現金払いとの併用がある場合は、現金のお支払い後になります。

C. ローンによる月々分割払い(Web)

月々の分割払いを低金利でご利用いただけます。ボーナス併用払いも可能。

お手続き後、通常即日～2日程度でローン審査完了。可決後すぐに学習をスタートしていただけます。

(詳細は各校にご確認ください)

分割回数：3～60回。

下記事項をシミュレーションいただけます(Web)。

● 分割回数 ● ボーナス併用払いの利用有無とボーナス月の加算額

ご請求書発行について

- 1 お申し込み書に必要事項をご記入の上、cisa@abitus.co.jpにファイルを送信、もしくは各校舎にご持参、ご郵送ください。
- 2 ご請求先 貴社名・部署名・ご担当者様の氏名、送付先住所・電話番号・メールアドレスなども併せてお知らせください。
- 3 追ってご請求書をご送付いたします。

※ 受講料振込後の役務提供となりますのであらかじめご了承ください。

よくあるご質問

■試験について

Q. 受験の手続き方法を教えてください。

A. ISACA®ホームページ(<https://www.isaca.org/>)より直接お申込みいただくのが一般的です。
手続きは全て英語ベースになります(受講生の方には日本語での手続きマニュアルをご用意しております)。

■学習について

Q. 監査に携わっていますが、ITバックグラウンドではないため、学習するのが不安です。

A. CISA®合格の重要な要素として、「監査の視点」が挙げられます。ITの知識が豊富でも、監査を理解しないと合格点を取るのは難しいでしょう。もし公認会計士やCIA(公認内部監査人)など、監査系資格を保有していれば、CISA®合格における大きなアドバンテージになります。

■資格認定について

Q. 資格認定における実務経験を満たしているか確認したいのですが？

A. 当パンフレットのP.10～11に掲載している実務経験を所定の年数(2～5年)お持ちでしたら、試験合格後に認定を受けられます。より詳細な判断を求めたい場合には、ISACA®本部に直接お問い合わせください。

Q. 試験合格後、いつまでに認定を受けなくてはならないという決まりはありますか？

A. 試験合格後、5年以内に申請を行わないと、合格実績が失効してしまいますのでご注意ください。

Q. 継続教育(CPE)の要件をどのように満たせばよいですか？

A. 120CPEを3年間で獲得する必要があります。研修会やセミナーなどの授業を受けてCPEポイントを獲得する場合が一般ですが、この場合は50分で1CPEとなります。ISACA®の個人会員になると、ISACA®の各支部では、定期的に開催している「月例会」という2時間の講習会に参加ができ、それにより、一定のCPEが獲得できます。個人会員になると、その他のCPEを獲得出来る、有料・無料の研修会や講習会の案内がくるので、ISACA®の個人会員になることは、CPEポイントを獲得するためにお勧めできます。
また、アビタスでもCPE対象となる、実務家向けの講座をご用意しています。更には、社内研修をうまくご利用されることで、継続教育条件を満たす方もいらっしゃいます。

■各種イベント

無料説明会

CISA®試験や当校プログラムについて詳しく知りたい方のための、無料説明会を開催しています。
CISA®プログラム受講をご検討中の方は、お気軽にご参加ください。

無料カウンセリング

皆さまの疑問に専任アドバイザーが丁寧にお答えします。

- テキストや問題集を見たい
- 学習プログラムの特徴についてもっと知りたい
- 学習計画や勉強時間について相談したい
- 申し込み方法やローンについて確認したい

無料体験講義

学習を開始する上で、やはり講義の雰囲気やクオリティは気になるものです。当校では、定期的に無料体験講義を開催しています。まずは実際の講義をご体験ください。

<https://www.abitus.co.jp/cisa/>

■新宿本校

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-1-1新宿マインズタワー15階

TEL : 03-3299-3330

FAX : 03-3299-3777

JR「新宿駅」南口徒歩5分・JR「新宿駅」甲州街道改札徒歩5分
都営地下鉄新宿線・大江戸線、京王新線「新宿駅」A1出口直結

【営業時間】 平日 11:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



■八重洲校

〒103-0027

東京都中央区日本橋3-6-2日本橋フロント4階

TEL : 03-3278-8800

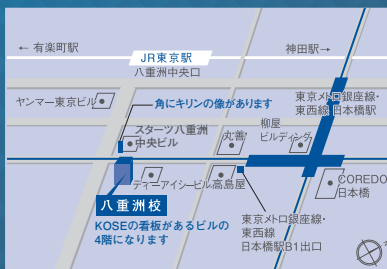
FAX : 03-3278-8801

JR「東京駅」八重洲中央口徒歩5分

東京メトロ銀座線・東西線「日本橋駅」B1出口徒歩3分

【営業時間】 平日 12:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



■大阪校

〒530-0017

大阪府大阪市北区角田町8-1

梅田阪急ビルオフィスタワー21階

TEL : 06-6365-8660

FAX : 06-6365-8661

JR「大阪駅」御堂筋南口徒歩4分

阪急「梅田駅」徒歩3分、地下鉄御堂筋線「梅田駅」徒歩2分

【営業時間】 平日 11:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



新宿本校 **03-3299-3330**

八重洲校 **03-3278-8800**

大阪校 **06-6365-8660**

受講相談専用メールアドレス

cisa@abitus.co.jp